

令和4年度厚生労働科学研究費補助金
(政策科学総合研究事業(臨床研究等ICT基盤構築・人工知能実装研究事業))

分担研究報告書

評価システムの改修

研究代表者 長島 正 (大阪大学教授)
研究分担者 田口則宏 (鹿児島大学教授)
木内貴弘 (東京大学教授)
秋葉奈美 (新潟大学助教)
野崎剛徳 (大阪大学准教授)

研究要旨

初年度にはe-logbookの個別症例データをDEBUT2に取り込めるよう、両システム間のデータ交換規約を作成するとともに、e-logbook側ではデータ送信インターフェースソフトウェアを、DEBUT側では症例データ受信インターフェースソフトウェアの開発を行った。今年度は、症例データを取り込んだDEBUT側で、それを研修歯科医あるいは指導歯科医が確認するための画面構成を検討し、必要なソフトウェアの開発を行った。本研究の成果により、DEBUT2に取り込まれたe-logbookの症例データを到達目標を評価するための参考として活用することがより簡便となり、客観性と信頼性をもった評価を行うための環境を整えることができた。

A. 研究目的

厚生労働省が求める歯科医師臨床研修プログラムには、研修目標とともに、研修修了のために必要な経験症例数の記載が求められている。しかし、プログラム上に記載された症例数は、そのカウント方法が必ずしも研修歯科医の実経験症例数と一致しておらず、指導歯科医の裁量によって決定することができる。一方で、指導歯科医が症例数を決定する際にその根拠となる実経験症例数を提示できることは、客観性および信頼性の高い評価を行うために必須の機能であると思われる。

本研究の初年度では、この実経験症例数を評価システムに取り込むためのインタフェースを設計し、そのために必要なソフトウェアの開発を行った。今年度は取り込まれた症例数を表示し、研修歯科医の自己評価あるいは指導歯科医の評価を支援するインタフェースの設計および開発を行うことを目的として研究を行った。

B. 研究方法

e-logbookから取り込んだ個別症例データはDEBUT2で研修目標ごとに集計し、表示する方式を採用した。具体的には、DEBUT2がすでに保有している到達目標のC領域に対する評価画面を改修し、目標ごとに自験症例数、介助症例数、見学症例数を表

示した。DEBUT2はWEBアプリケーションとして開発されており、操作はWEBブラウザを介して行う。したがって、パソコン、タブレット、スマートフォンなど様々な端末にて操作できるようレスポンシブデザインが採用されている。

C. 結果

DEBUT2では、厚生労働省が定める臨床研修到達目標のC領域に対する評価は評価表Iとしてまとめられている。IDおよびPWを用いてDEBUT2にログイン後、評価表Iを選択すると、図に示したような画面が表示される。この画面はC領域の、(1)基本的診察・検査・診断・治療計画のうち、「①患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。」という到達目標に対する評価を入力することができる。この到達目標には、e-logbookでの評価項目のうち、医療面接の病歴聴取および診療録記載が紐づけられており、それに対する症例数の集計結果が、自験、介助、見学に分けて表示される。指導歯科医はこの症例数を参考として、その上部に表示されている「認定症例数」のボックスに認定できる症例数を入力し、さらに上部の担当指導歯科医評価欄にこの段階での到達レベルを、指導歯科医の介助の下で実施可能、指導歯科医の監視の下で実施可能、単独で実施可能、後進の指導ができ

評価票I (1. 基本的診察能力)							
評価票I (2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等)							
評価票II							
評価票III							
レベル		指導歯科 医の介助 の下で実 施可能	指導歯科 医の監視 の下で実 施可能	単独で実 施可能	後進の指 導ができ る	観察機会 なし	
(1) 基本的診察・検査・診断・診療計画							
①患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。	評価人数	上級歯科医	0	0	0	0	
		歯科医師以外	0	0	0	0	
	担当指導歯科医評価		✓	✓	✓	✓	✓
	平均						
②全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施	経験症例	認定症例数: <input type="text"/> (必要症例数: 5)					
		症例名称		自験	介助	見学	
		医療面接 病歴聴取		13	1	0	
		医療面接 診療録記載		10	0	0	
評価人数	上級歯科医	0	0	0	0	0	
	歯科医師以外	0	0	0	0	0	
担当指導歯科医評価		✓	✓	✓	✓	✓	
平均							
		認定症例数: <input type="text"/> (必要症例数: 5)					

図 DEBUT での評価入力画面の例 (スマートフォンでの表示例)

評価表 I (到達目標の C 領域に対する評価を行うページ) において、目標ごとに経験症例として、当該目標と紐づけられた研修実績 (e-logbook に入力され、指導歯科医が承認した症例数) が一覧表として表示される。指導歯科医はこの数字を参考に認定症例数を決定・入力するとともに、その上段に評価結果を入力する。

る、の4段階で評価できる。「観察機会なし」は、当該期間にこの目標を経験する機会がなかった場合に選択する。

D. 考察

これまでのDEBUTでは、到達目標の研修歯科医と指導医による評価、研修歯科医による指導歯科医評価、施設評価、研修プログラム評価を行う機能を有していたが、症例データの参照する機能を有しておらず、別途Excel等で管理した症例データを参照しながら評価を行う必要があった。今回、e-logbookはにより登録された症例データを取り込み、それを評価画面に集計・表示する機能を搭載したことにより、到達目標を評価するための参考として症例

データを活用することが可能となり、より正確に評価が行えるようになった。このことは、研修歯科医に対して正しく評価できるだけでなく、多くの国費を費やして実施されている臨床研修制度において、国民に対する説明責任果たす上で大きな意味を持っており、その意義は大きいと考えられる。

E. 結論

DEBUTに取り込んだ症例データを評価画面に集計・表示するためのソフトウェアを開発した。本機能の追加により、DEBUTでの評価入力時にe-logbookで入力した症例データを参照することが可能となった。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし